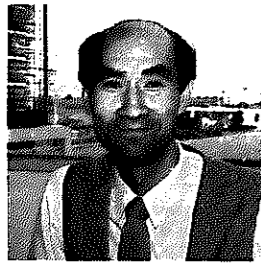


みんなの協力で リサイクル



ウオエイ 営業本部長
渡辺幸栄さん

お客様の強い要望もあって、牛乳パックの回収を七月十七日から、全店一斉に始めました。この仕事は、経済ベースの仕事ではありません。手間暇かけてやっても、それに見合うものではないのです。環境問題やゴミ問題を考えた上で、大きく言えば「地球環境を守る」ため、私たちが行動できる第一歩として実施したのである。

当社では、牛乳パックの回収利益を、地域で役立てていただくために考え、各店舗の販売代金に、それぞれの地域で有効に使ってもらうことにしました。白根地区では身障者団体の「手をつなぐ親の会」に寄付をし、将来計画されている福祉作業所の建設に役立ててもらおうことにしました。同様に新潟地区では寺尾にある青松学園に寄付し、

私の家ではゴミはほとんど出ません。野菜くずは穴を掘って埋め、土に戻します。燃える物は家で燃やし、灰は埋めます。もっともこれは家の敷地が広いからできることでしょう。

牛乳パックの回収については新聞などでも報道され、関心はありました。いい紙を使っているというので、捨てるのはもったいないと思っていました。農協から牛乳を購入しているのでも、農協婦人部の役員会でパックの回収について話をしたところ、ちょうど経済連からも要請があったということで、すぐに取り上げてくれました。お陰様でいつでも農協の支所に出せるようになりました。

今は物が豊富でお金もあるけれど、心が豊かでお金もあるわけではないので、みんな非常に協力的でした。もっと廃品回収をしてほしいという声もあります。自分さえ良ければいいという世の中で、大勢で力を合わせるこの素晴らしい時代を、少しでも物の貴さを考えてほしいです。

地球環境を守るための 第一歩。まちぐる みで息の長い活動に



▲牛乳パックがティッシュに

燕地区では、回収事業を市が行っているの、そこへ持つていくことにしました。こうすれば、協力して下さるお客様の目に見える形で分かっていただけるので、一層の協力をお願いできるのではないかと思います。

スーパーにとって牛乳パックは氷山の一角です。ほかはまだ、買い物袋やトレーの問題があります。買い物袋は、家庭で再利用するケースが多いのでまだよいとしても、トレーは大きな問題です。既に、再利用の方法なども研究されていますし、今後私たちが検討していかなければならない課題だと思っています。

最近、消費者意識が変化していることは確かです。環境問題やゴミ問題に大きな関心を持っています。今までの消費者活動は、ブームで終わった感がありますが、この活動は根付いていくでしょう。私たち企業も努力しますが、市民ぐるみ、まちぐるみで、息の長い活動を続けていかなければなりません。

牛乳パック回収は小さなことだけれど、何かを考えるきっかけにしたい



金子 房子さん
(戸頭・農業)

私も、心というものを考えると、何か寂しくないでしょうか。牛乳パックの回収は小さなことだけれど、何かを考えるきっかけにしたいと思うんです。

部落の集会所の食器類などの購入資金にするため、婦人会などが中心に、三年間廃品回収をしたんです。思いのほか収益があつて、スリッパやカーテンも購入できました。それらを買うために一軒ずつお金を集めるのは簡単ですが、それでは意味がありません。みんなで力を合わせて何かをすることが大切だと思います。集会所のためにというので、みんな非常に協力的でした。もっと廃品回収をしてほしいという声もあります。

自分さえ良ければいいという世の中で、大勢で力を合わせるこの素晴らしい時代を、少しでも物の貴さを考えてほしいです。



▲白根市農協小林支所の回収箱

当社では、牛乳パックとアルミ缶のリサイクルに取り組んでいます。これは、当社の「奥様アドバイザー」の会議で、提案されたものです。

奥様アドバイザーは、二十数年前から設けている制度で、二十人以上の消費者の皆さんと、店の利用や当社の商品などについて月一回、意見交換をしています。この中で、環境問題、ゴミ問題について、販売店としても何らかの対応をしてほしいという提案がありました。すぐに全国のスーパー、チェーン店の情報を集め、何ができるのか検討し、昨年の十二月から牛乳パックの回収に踏み切ったわけです。回収は、あくまでもボランティア

お客様の提言から 始めた資源回収。 後始末も企業責任



▲アルミ缶回収箱(写真の缶はスチール缶)

清水フードセンター 販売促進課 課長 頼所伸一さん

このように状況から、二月からアルミ缶の回収もしています。これも牛乳パックと同ような考え方で、販売代金は県の社会福祉基金に寄付しています。

当社は配送ルートがしっかりしており、配送センターに一括集中できるので、いつでも、幾つでも回収できます。物を売るだけでなく、その後始末をすることもスーパーの社会的責任です。今後も環境問題、ゴミ問題の解決のため、当社で何ができるか検討を続けていきます。



▲清水フードセンター本部

資源ゴミ回収を検討中。「ゴミは燃やす」という考えを変えていく



白根衛生センター組合
事務局長 外川吉雄さん

ゴミの排出量は今後さらに増え、現在の一日に六十トン余りから、十年後には百トン程度になると予測されます。ゴミの減量は経費の節減ばかりではなく、焼却場の寿命を伸ばすことにもなります。ゴミの増加は埋め立て地の寿命も縮めます。現在の埋め立て地も、できるだけ長く持たせようと努力しています。

最近では焼却灰を高温で溶かし、急速に冷却して「スラッグ」というガラス状の物体にする「灰溶融」の処理技術も進んでいます。体積も半分以下になり、建設資材として再利用もできますから、将来はこのための施設も導入したいと思っています。

ゴミ処理の先進地といわれる自治体では、ゴミを有価物として分別することが住民運動として定着しています。そのためには住民の苦



焼却灰の再資源化「スラッグ」
は住民の苦
労に報いる
ための行政
の後押しも
必要だと思
います。具
体的には最
近多くの自

自治体では、ゴミを有価物として分別することが住民運動として定着しています。そのためには住民の苦

基本的には「ゴミは燃やす」という考え方は変えていかなければなりません。ゴミの山は宝の山です。衛生センターの業務は処理が主体ですが、構成市町村と一緒に、資源としての有効利用も考えていきたいと思